

クラブ「三線」 全5回終了

金城佳隆氏を講師に、4月30日にスタートしたクラブ三線は、9月10日(木)で全5回を終了しました。昨年購入した三線を手に、一生懸命なれない指で弦を押え、集中して練習に打ち込む教育研究員の皆さん。多くが初めての三線と工工四に戸惑いながらも講師の金城先生の丁寧でわかりやすく、ウチナーぐちも交えた熱心な指導のおかげで、回を増す毎に会議室に流れる三線の音は、素敵な音色を響かせていました。

【クラブ 三線の概要】

- | | |
|--------------------------------|-------|
| 第1回 「沖縄の文化」 | 4月30日 |
| (1) 三線の歴史 (2) 三線の各部の名称 | |
| (3) 弾くときの姿 (4) 調弦 (本調子、一二揚、二揚) | |
| (5) 工工四の読み方、弾き方 | |
| 第2回 「安波節」 | 5月14日 |
| (1) 調弦 ③ (2) 音出し | |
| (3) 「チューリップ」「安波節」の練習 | |
| 第3回 「安波節」 | 6月18日 |
| (1) 慰霊の日を前に (2) 民謡『嘆きの梅』について | |
| (3) 「チューリップ」「安波節」「安里屋ユンタ」 | |
| 第4回 「安波節」「安里屋ユンタ」 | 7月17日 |
| ○「安波節」「安里屋ユンタ」の練習 | |
| 第5回 「安波節」「安里屋ユンタ」 | 9月10日 |
| ○「安波節」「安里屋ユンタ」の仕上げ | |



写真1 講師の金城先生を囲んで

【教育研究員の感想】(お礼のことばから)

私は今までに三線の経験がなく、最初の頃は、「弦が切れないか、糸巻きを巻きすぎて壊してしまわないか」と触れるのも恐る恐るでした。音楽は好きですが、工工四がなかなか覚えられず、苦戦しました。しかし、阿波節や安里屋ユンタは馴染みのある曲で、練習するのはとても楽しかったです。また、金城先生は、三線をご指導して下さるだけでなく、歌詞の意味も丁寧に解説して下さい、その中で民謡「嘆きの梅」についてのお話が一番印象に残っています。沖縄の伝統芸能に触れ、自身の感性を磨くことの大切さや教師として後生にどう伝えていくかを考えるきっかけとなりました。(金城さくら)

最初の頃は、三線をひくことに不安と緊張がありましたが、佳隆先生の三味線の指導はとにかく楽しく時間があっという間に過ぎていきました。いつのまにか不安や緊張感もとれ楽しめる自分がいました。また、三線以外のお話もとても印象に残っています。佳隆先生の中学時代のおもしろいお話や琉歌にひめられた意味やその当時の社会状況など、沖縄の文化や歴史を感じることができました。現場に戻ったら、その大切さを子ども達に、伝えて行きたいと考えています。(大城厚)

三線との出会いは、祖父母のお祝いに「安里屋ユンタ」を披露したいと思ったことがきっかけです。書店で工工四を買い、自己流で練習しました。今回は、金城佳隆先生から沖縄の方言や三線の歴史、琉歌の歌詞の意味等も教わりました。三線については、持ち方や正しい姿勢、弦の押さえ方やはじき方等を丁寧に御指導頂きました。琉球民謡は、独特な節回しがあり、三線の演奏のみならず、歌も歌いながら体全体を使って演奏できることが望ましいということでした。人々の生活の中で、古来から受け継がれてきた琉球伝統芸能をこれからの世代にも引き継ぎ、アイデンティティーをつないでいきたいです。(長門照乃)

阿嘉小学校勤務の2年間、趣味で三線をやっているおじいから習っていました。しかし、今の学校に赴任してからは、弾きたいと思っても調弦ができず、三線を弾く機会から随分離れていました。クラブで三線があると聞いて、本当にうれしかったです。佳隆先生の教え方は分かりやすくイメージしやすかったので、少しずつ基本に忠実に弾くことができるようになりました。佳隆先生から多くの民謡を紹介してもらいました。歌詞の意味と時代背景の話を聞くのをクラブの度に楽しみにしていました。クラブを通して三線の良さや楽しさを感じました。これからは、時々三線を弾く機会を作り、歌いながら弾けるようにしたいと思います。そして、いつも先生が笑顔で調弦をやって頂く度に私も自然と笑顔になっていったような気がします。(具志堅智美)

三線を弾くのも触るのも初めて、三線の各部分の呼び方や持ち方など、基本的なことから教えていただき、楽しく学ぶことができました。最初は、左手が難しく、音階をしっかりと出すのに苦労しました。さらに、工工四を覚えきれず、横に音階(ドレミ)を書いて弾くことにし、なんとか弾くことができるようになってきて、とてもうれしく思いました。音符と違って、音の長さを感じて弾くようなところもあり、とても難しく感じました。自分で弾く機会がなかったので、良い経験をさせてもらいました。少ない回数ではありましたが、沖縄の伝統的な楽器に触れられ、学ぶことができて良かったです。(古屋誠一)